

【研究主題】 人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育
【研修会主題】 学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方

【研修会主題に迫るための視点】

<p>視点①</p> <p>子どもが自ら問いを見だし、主体的に学び続けることができる単元づくり</p>	<p>① 社会的事象との出会いを大切に、子どもの問題意識を大切に「単元を見通す学習問題」をつくることのできるような単元を構想する。</p> <p>6 学年の政治や歴史、国際社会の学習は子どもたちの日常と距離があると考え。そこで、子どもたちが主体的に学んでいけるような社会的事象との出会いを設定することで、問いをもち、主体的に学ぶ子どもを育てたい。そのために、子どもたちが「なぜ」「どうして」「どのようにして」と問題意識をもち、学び続けることができるような「単元を見通す学習問題」をつくることのできるよう単元を構想することを大切にしたい。</p> <p>② 子どもたちと立てた「単元を見通す学習問題」を追究する過程で、子どもたちが主体的に学んでいるかを見とり、予想と見通しを大切に単元づくりをする。</p> <p>「単元を見通す学習問題」を解決するために、予想と見通しを大切に学習計画を子どもと一しょに立てていく。また、毎時間の学習問題に対して、問題解決の方法の見通しをもち、個の問題意識に応じた問題解決の方法を考えたりすることで、主体的に学ぶ子どもを育てたい。また、学習が進む中での子どもの様子を見とり、学習計画を修正したり、個に応じた手だてを考えたりし、子どもが学習の主体者として学習が進むようにしたい。また、学習の積み重ねが視点②の「本気の学習問題」につながっていくようにしたい。</p> <p>【検証方法】視点①—①、①—②のいずれにおいても、注目する児童を設定し、ふり返りや具体的な学びの姿を追うことや単元構想と実際の流れを比較することを通して、どのような手だてが有効か考えていきたい。</p>
<p>視点②</p> <p>個を生かし、協働的に学びを深めることができる授業づくり</p>	<p>① 子どもたちの問題意識のもとに成立し、社会的事象の意味等に迫るものになるような「本気の学習問題」を設定する。</p> <p>6 学年部会では、政治や歴史、国際社会の社会的事象の意味に迫る「本気の学習問題」の追究を通して、個を生かし、協働的に学ぶ姿を大切にしたい。そのために、子どもたちの問題意識のもとに成立する「本気の学習問題」の設定を大切にしたい。単元を通して学習したことがつながり、政治や歴史、国際社会のそれぞれの社会的事象の意味等に迫る本気の学習問題について考えていきたい。</p> <p>② 「本気の学習問題」の追究を通して、個の学びが生かされ、協働的に学ぶことができる学習展開を構想する。</p> <p>「本気の学習問題」の追究を通して、個の学びが生き、協働的に学ぶためには、子どものみとそこから考える教師の手だてを大切にしたい。個の学びを教師がみとり、必要に応じて適切な手だてを講じることで、協働的に学ぶことができると考える。</p> <p>【検証方法】視点②—①、②—②については、学習問題に対する子どもの考えのみと授業記録の関連や、授業記録や提案者の意図、授業後の子どもの姿の分析から、どのような手立てが有効か考えていきたい。</p>

【6 学年部会で目指す子どもの姿】

我が国の政治、歴史及び国際理解に関する社会的事象について、見方・考え方を働かせ、学習問題を追究・解決する活動を通して、根拠をもとに統計や年表や地図など基礎的資料などを効果的に活用しながら調べたり、多角的に考えたりしたことを表現し合うことを通して、学んだことを学習や生活に生かそうとする姿

【学習内容と学習指導要領の関わり】

政治の学習	政治の働きについて、国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることから、地域や日常生活とのつながりが見られる事例を調べ、政治を取り巻く事柄に関心をもったり、日本国憲法の基本的な考え方に沿って国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりする子ども
歴史の学習	歴史上の主な事象について、歴史を学ぶ意味を考えながら先人の業績や優れた文化遺産などを調べ、今日の自分たちとの生活と過去の出来事とのかわりや比較、関連付けながら理解し、過去の出来事をもとにして、国家及び社会の発展を考え、学んだことを生かし表現できる子ども
国際社会の学習	グローバル化する世界と日本の役割について、つながりが深い国の人々の生活や様子、国際交流や国際協力の様子、国際連合の働きを調べ、世界平和や世界の国々の人々と共に生きるために、異なる文化や習慣を理解し合うことの大切さや国際交流の果たす役割を考える子ども